

海のもしものは118番



名護海上保安署通信

第8号 平成26年5月8日発行

〒905-0011

名護市字宮里 452-3

☎ 0980-53-0118

GW 警乗・ターミナル警戒

名護海上保安署では4月26日から5月6日までのゴールデンウィーク期間中、離島フェリーへの警乗と旅客ターミナルのテロ警戒を実施しました。

この警乗・警戒は、ゴールデンウィークで離島への帰省客や観光客など多くの人が集まる旅客ターミナルや旅客船において、不審物や不審者への警戒を行うとともに、不審事象を発見した場合の海上保安庁への118番通報の徹底を呼び掛けるものです。

また、名護海上保安署では、海洋レジャーが活発になるこれから夏場にかけて、小型船舶の出航前点検や乗船者の救命胴衣常時着用、気象・海象を勘案した安全運航を呼び掛けています。



名護湾で遊漁船が火災

4月24日午後4時24分、遊漁船「善海丸千」の船長から第十一管区海上保安本部に、「名護湾で機関室から出火したのでこれから全員海に飛び込む」という内容の118番電話が入りました。



名護海上保安署では、直ちに機動救難士を乗せたヘリコプターの派遣を要請して巡視艇なごづきを出動させるとともに、琉球水難救済会本部救難所(本部漁業協同組合)の第五海耕丸船長に救助を要請し、午後5時過ぎまでに、漂流していた乗員等9名(船長1名、釣客等8名)のうち、7名を第五海耕丸が救助、2名を巡視艇なごづきが救助しました。9名は救急車で病院に搬送されましたが、全員怪我は無く無事で、その後、遊漁船は水納島の南約3キロメートル海上で沈没しました。

火災の原因は調査中ですが、今回の事故では、善海丸千船長が海に浮く物を投げたうえ全員に救命胴衣を着用させて海に飛び込み、手を取り合っ一箇所に留まっていたことが迅速な救助に繋がったものと考えられます。

火災船救助者に感謝状

4月24日に名護湾で発生した遊漁船「善海丸千」の火災事故で、名護海上保安署からの救助要請を受けて乗員等7名を救助した本部漁業協同組合の第五海耕丸船長とその友人男性に、5月7日、名護海上保安署長から感謝状を贈呈しました。

感謝状を贈呈されたのは、第五海耕丸船長の謝花喜和氏と、その友人で本部漁協所属の翔丸船長金城秀則氏です。

第五海耕丸船長の謝花喜和氏は、名護海上保安署から本部漁業協同組合に救助要請がなされた際、たまたま同漁協事務所に居合わせたもので、直ぐに友人の翔丸船長金城秀則氏に声をかけ、二人で第五海耕丸に乗り込んで救助に向かい、要請からわずか数十分という短時間で7名を救助しました。

救助が遅れて夜間に及べば乗員等の生命にもかかわる重大海難に発展する虞もあったもので、名護海上保安署ではその功績が顕著であることから感謝状を贈呈したものです。感謝状を贈呈された謝花さんは、「海人(うみんちゅ)として当然のことはただけ。」と謙遜していましたが、迅速的確に対応して下さった海の男の存在にとっても心強く感じました。海上保安協力員・海上安全指導員の皆様が所属する組織で琉球水難救済会の救難所に指定されているところもあるかと思いますが、今後ともこの種海難の際のご協力をよろしくお願いいたします。(写真左から琉球水難救済会比嘉会長、謝花さん、署長)



編集後記：4月1日付けで名護海上保安署長の人事異動がありました。

新署長は、古波蔵喜則(59歳)で、那覇海上保安部巡視船りゆうきゅうからの転任です。

近々に海上保安協力員・海上安全指導員連絡会議を開催して顔合わせをしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。(文責：保安署次長)

海のもしものは118番